

Your business plan is realized in this place!

S-Cube

SAKAI BUSINESS INCUBATION CENTER
エスキューブだより Vol.19 | 特別レポート

Special Report

S-Cube news Special issue Vol.19

株式会社さかい新事業創造センター
エスキューブとは

起業家や新分野進出をめざす中小企業を支援するための起業家支援施設です。施設内の各居室（創業準備デスク・オフィス・研究開発用ラボ）では、経営支援の専門家（インキュベーション・マネージャー）による支援のもと、数多くの起業家やベンチャー企業が事業活動を行っています。

TAKE FREE



想像を超える 未来を創造する

スタートアップに特化したエスキューブのプログラムを紹介

本冊子は、S-Cube(さかい新事業創造センター)が提供する、ビジネス創出をサポートするためのプログラムと事業を紹介する、特別レポートとなっています。エスキューブでは、創業間もない企業、第二創業、スタートアップに関心のある方に向けて、セミナーやワークショップイベントなど、各分野の専門家を迎え、起業や成長に必要なノウハウを学ぶとともに、先輩起業家や業種・世代を超えた起業家との交流によるビジネスアイデアの着想や刺激を得ることができる様々な機会を提供しています。本冊子を通してS-Cubeの特色ある事業をご覧ください。

SSR-INDEX

プログラム紹介

- 01- アクセラレーションプログラム「受講生の声」
- 03- トライアルラウンドテーブル「実証報告」
- 07- S-Cube その他のプログラム
- 08- S-Cube:BIZBASEの紹介
- 09- 入居企業・卒業企業 紹介

S-Cube news Special issue Vol.19/SSR

SAKAI ACCELERATION PROGRAM

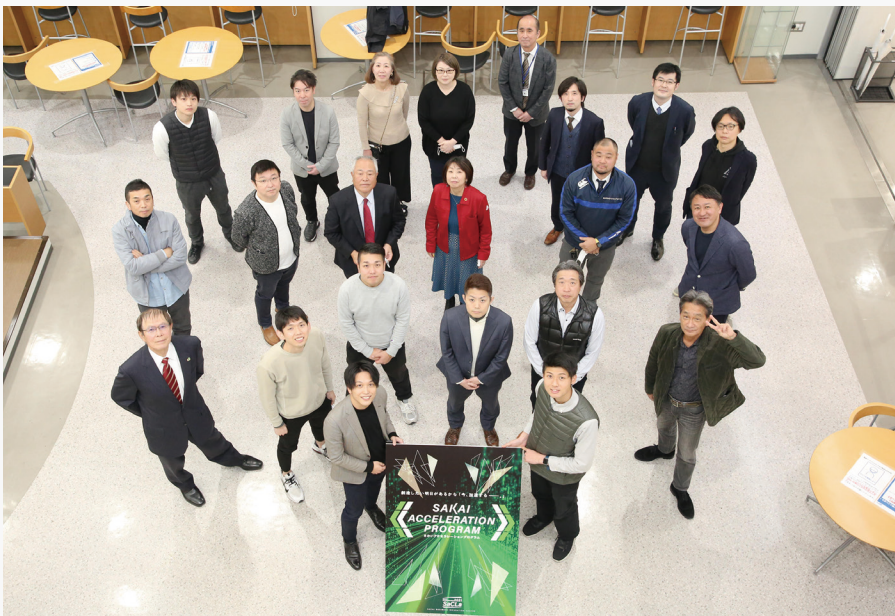
さかいアクセラレーションプログラム

受講生の声

S-Cube は、創業間もない企業、起業家のための様々なプログラムを実施しています。ここでは、年間十数回から成る「さかいアクセラレーションプログラム」の受講生の声を紹介します。



2021-2022 アクセラレーションプログラム総括発表会にて、プレゼンテーションの様子



2021-2022 アクセラレーションプログラム総括発表会の参加者と講師陣

アクセラレーションプログラムについて

新たな様式・価値を生み出すことが期待されるスタートアップ・ビジネス。一方で事業の成立・成長・成功には、身につけておくべき“知識”があります。本プログラムは、大きく3つのパートに分かれています。まず【アクセラレーション講座】この講座では、事業開発、金融(デット・エクイティ・資本政策等)、法務(知的財産・契約等)などの分野で、スタートアップに深い知見を持ち皆様方の強い味方となる専門家から必要な知識を学んでいただけます。次に、【先輩起業家セミナー】という構成になっており、最後に、参加者同士の交流を考え【ネットワーキング交流会】を行います。新たな「つながり」をきっかけに、より「ビジネスを加速させる(アクセラレーション)」プログラムとなっています。



Scan the QR code



FOME
オーナー/木原倫太郎
rintaro61727@gmail.com
<https://fomebyfome.com/>

fome

「服を通して自己表現を持ってもらい
自信を持った人になってほしい」

という想いを持たれているフォームの
オーナー木原さんにお伺いしました。

Q:「受講前の事業の状況は?」

まだ実店舗も持っておらず事業を拡大したいという想いはあったものの、周りに事業を行っている方もいなかったため、右も左もわからない状態でした。拡大するためには融資を受けないといけないと思っていたため、それに向けて一つ一つ課題を解決していく状況でした。

Q:「どういった講座、知識が御社にメリットがありましたか」

弊社はまだ個人事業主として活動して間もないため、ベンチャーキャピタルやスタートアップとは程遠い企業でした。しかし、様々な社長のご対談や法務全般の基礎知識などこれまで触れてこなかった部分を勉強できたのは、今後の成長過程において重要な要素だと感じています。また社長のご対談は、これから事業で問題が起きた際に解決するためのヒントとして活用できると感じています。」

Q:「プログラムを終えた今、
感じていることはありますか」

社会に貢献していくかというのをより一層考えるようになり、それを行うための一歩として法人化し

ようと行動に移しています。またサグリ株式会社の坪井さんのお話を聞き、社員との関係性の大事さを再認識できました。人それぞれ考え方に違いがあり、ぶつかることもあります。それをどう生かしていくのかも自分次第なのということが分かりました。IPO などは縁のないことだと思っていたのですが、このプログラムをきっかけに考えるようになりました。



木原さんは近畿大学に通う現役の学生起業家です。

事業内容について

中津で古着と新品のセレクトブランドの販売を行っています。一般的な洋服店とは違い接客時間が長いのが特徴です。一組のお客様に 1-2 時間ほど接客を行い、接客も含めたコトとして服を販売しているのが特徴です。接客では服の内容からお客様のパーソナルな内容まで幅広い会話をしています。珈琲なども提供し、お客様がくつろぎやすい場を提供しています。BtoC を主体としたビジネスモデルのため、ブランドコンセプトや接客スタイル、商品構成など、お客様にどのようなイメージを持ってもらえるのかを意識しています。



NAKAO co.

Scan the QR code



中尾食品工業株式会社
代表取締役社長/中尾友彦
072-273-4545
<https://nakaoshokuhin.co.jp/>

「大阪府下で、唯一の
オーガニックなこんにやく製造」

「をされている中尾食品工業株式会社の
中尾さんにお伺いしました。」

Q:「受講しようと思ったきっかけは?」

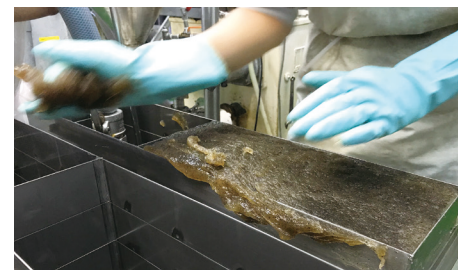
S-Cube マネージャーから「参加してみてもいい?」とお誘いがあったため勉強してみようと思い、受講することを決めました。受講前の事業の状況は競合が他府県から攻めてきている状況でなかなか厳しい状況が続いていました。新規事業の立ち上げを思案していたので、何かの参考になり、また人脈も形成できるのではないかと思います。メリットがあると判断しました。

Q:「プログラムを終えた今、
感じていることはありますか」

事業の状況は変わりなく厳しいですが、この講座を通じて新規事業案を考えるきっかけになりました。メンタリングの機会があり、積極的に参加しました。そのお蔭でだいしんビジネスピッチにおいて、ファイナリストとして選出いただけました。もっと早くからこの講座を知っていたら、過去の選択で色々悔しい思いをしました。何か新しい事業を始めたいと思っている方は受講をおすすめします。

事業内容について

昭和2年に創業以来こんにやくを製造・卸し小売りをしております。大阪府下でオーガニックの認証を持っているこんにやく製造事業者は弊社しかありません。堺市内においても唯一の事業者です。



こんにやく製造の様子



こんにやくの強みを活かした
アイデアが光る新商品!「SHAPEMEN」

堺をスタートアップの実証フィールドへ 実証報告

Trial Round Table

堺市内を企業のサービスや商品の実証フィールドとして、支援・協力する取り組み、堺市スタートアップ実証推進事業に参加した3社の実証成果と様子をお伝えします。

堺グランドデザイン 2040 における将来イメージ



中百舌鳥エリア



泉北ニュータウンエリア

堺市スタートアップ実証推進事業 「トライアルラウンドテーブル」について

堺市では「堺グランドデザイン2040」において、中百舌鳥エリアを「スタートアップを生み育み、新たなイノベーションに出会えるエリア」とするビジョンを掲げ、市内外からイノベティブな人やアイデアが集まる仕組みづくりを進めています。またコロナ禍に対応する「新たな日常」の下で生じる社会課題については、イノベーションの創出とその社会実装を通じて迅速に対応していくことが重要であり、堺市のイノベーションの牽引役としてスタートアップが担う役割への期待がますます高まっています。

スタートアップ支援にあたっては企業の成長段階に応じた支援が重要となり、一般的に創業段階を越えたスタートアップに対しては、製品やサービスにかかる概念実証（PoC）やプロトタイプ開発にかかる実証サイクルをできるだけ早くかつ効率的に回すことができるよう支援することが必要となります。

このような認識のもと、「堺をスタートアップの実証フィールドへ」をキーワードに、市内外のスタートアップが中百舌鳥や泉北エリアをはじめとする本市内において実証事業に取り組みたい新たなビジネスアイデアを広く募集します。

そして実証の成果に期待が持てる事業を目利きする仕組み【さかいスタートアップ トライアル ラウンドテーブル】を通じて支援対象事業として採択し、必要な経費の一部を補助すること等を通じて、堺市におけるイノベーションの創出を促進します。

実証フィールドの紹介

堺市博物館

古代ローンを秘めた百舌鳥古墳群のほぼ中央にある堺市博物館は、市制90周年記念事業として昭和55（1980）年に開館しました。生涯学習と市民文化の向上のため、堺の歴史、考古、民俗に関する博物館として、多くの資料を収集・保存・展示しています。特に令和元（2019）年7月に世界遺産登録された百舌鳥古墳群内で出土した資料や火縄銃、ふとん太鼓など、多様な側面から堺の歴史文化について、知り・学べる施設となっています。

堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 大仙公園内 堺市博物館 / 文化観光局 博物館 学芸課 / 072-245-6201

Scan the QR code



今回の実証事業で使用したロボリユーション01G 通信環境は必要なく、自動追従機能で人（目標）に付いていくため、あらゆる環境でもすぐに導入できる強みがある。



一定の間隔を保ち、学芸員についていくロボットたち

株式会社ロボリユーション
代表取締役／小西康晴
<http://robolution.jp/home.html>

Scan the QR code



Trial Round Table Case 01



移動ソリューション × 付加機能で新たな価値を。

現在、ロボット製造に関わる会社は多くあるが、その多くが開発で終わっている。そのなかで異彩を放つ存在が株式会社ロボリユーションだ。企画提案から設計、運用に関するロボット開発業務を一手に引き受け、機能価値だけでなく「感性価値」を両立させたロボットシステムを追及している。同社代表の小西康晴さんは大学院で「自律走行自転車ロボットの開発」を研究し、大手企業に在籍後、2006年に同社を設立。メインとなるのは大手企業のサービスロボットの開発・プロデュース事業で、たとえば大和ハウス工業株式会社とおこなった「遠隔操作による住宅床下点検ロボットの開発」がある。これはロボットを設計製造するだけでなく、点検状況を屋内のテレビに映し出し、問題点を施主と一緒に可視化するまでのサービスを付加したもの。開発にあたっては「なぜロボットが存在しなければならないか、会社で取り組む理由」から企画を詰めていく。「思い描いたストーリーを実現するための技術は、もうすでにある。そ

れよりもロボットは機能価値だけでなく、感性価値も語っていかねば。コンセプトと価値を積み上げて、ストーリーをつくれるかが重要です」4年前からモビリティ事業をスタートさせた同社が、今回おこなった実証実験は「自動追従モビリティを活用した展示物案内システムの有効性を検証」するもので、使用したモビリティ「ガルー」は、すでにシンガポールのチャンギ国際空港に導入実績があるが、展示物をみるための実証実験は初めて。S-Cube から堺市博物館を紹介され見学したところ、「実証にびっくりな構造だったのでエントリーしました」。案内する学芸員が先頭を歩き、専用のスマホアプリにて、Bluetooth 経由で連結した台車が自動で追いかけるというシステムで、博物館内の展示品を鑑賞する体験会を1日で6回実施し、どんな人でも展示鑑賞が楽しめるツールとして使えるかを検証した。

今回のアンケートでは安全性が確認できただけでなく、足が不自由で広い博物館をまわるのを

諦めていた人も、モビリティに乗ってはじめてゆったり見れたという声も聞けた。「堺市博物館も広いですが、もっと広い博物館があるので、有料でこういう鑑賞法があればまた違った価値が生まれてくると思っています」。それ以外にも「ワクワクした」「遊園地みたい」という感想も多く、エンターテインメント性の高さも実証。

今後は、2025年の大阪万博までにモビリティを相当数がリリースできる状態にしておきたいと語る。「ある程度ビジネスとして固まった形で、万博会場でも実証実験できたらと考えています」





Scan the QR code

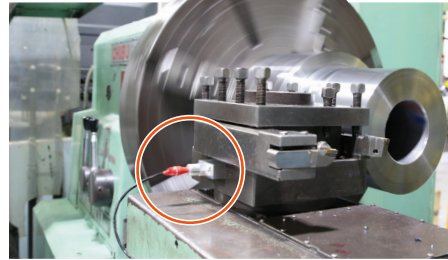


株式会社フツパー
代表取締役社長／大西洋
06-6151-9167
http://hutzper.com/

Trial Round Table Case 02

AIと職人の叡智を掛けあわせる。

「早い、安い、巧い」。そんなAIの常識をつがえすコピーを掲げて躍進する企業がある。2020年創業の株式会社フツパーだ。製造業向けの目視検査や外観検査の自動化ができるエッジAIサービスを提供している。代表取締役兼 CEO の大西洋さんは新卒で製造業に入社し、現場では「目視の自動化が求められている」と気づく。「1センサないしは1カメラで、価値を提供できるのが当社のAIのポイントです」との言葉通り、同社の目視検査はカメラ1台でできるという。もちろんこのやり方では得られるデータに限りがあるが、データの取り方が肝だという。「目視検査でも精度の高いカメラと照明で傷をしっかりと撮れば、圧倒的に早くていいものがつくれます。そして何が必要かデータを明確にすれば逆に解析のスピードは上がる。またエッジAIは通信費等の運用コストが抑えられるぶん、複雑化しやすく運用が難しいとされるが、同社ではネットとつなげて使うことが前提。AI自体は現場に設置し、閲覧画面やデータ収集の基盤といった学習部分はすべてクラウドでおこなっている。つまりエッジとクラウドのハイブリッドAIなのだ。今回の振動ソリューション「振動大臣」も構成は同じで、センシングや設定値入力現場で完結させ、収集したデータのサマリーやレポート化はクラウドでおこ



(写真左)低コストで複数の工作機の振動を処理できる振動大臣
(写真右 円内)旋盤機の刃部分に取付けられたセンサ、工作機によってセンサの位置は変わる

なう。旋盤機に振動センサを設置し、異常値の振動データを収集してAIに学習させることで「針折れ」の予兆を検出。職人のスキルを可視化し、異常発生前にアラートを出すシステムを構築する。今回、実証フィールドとして使用するのは堺市の株式会社浪速工作所。谷本代表取締役から社内の課題解決を依頼された。「稼働率を上げたいが、刃物が折れたり機械が壊れる可能性から24時間機械は回せない。だからトラブル時に機械を止められる装置をつくらうと思った。ただ解析能力がないので大西洋さんに依頼しました」。「振動大臣」では取得するデータを絞ることで解析しやすく、リアルタイム表示だけでなくスタート時に職人が入力した数値や稼働後のグラフも即時に見ることが可能だ。また職人

は経験から「回転数を上げると火花が出るのでよくない」という感覚は持っているが、実際にこの装置で確認するとグラフでも波形が乱れた。これまで職人が感覚でおこなってきた微調整を可視化したのだ。3ヶ月の実証実験を経て、最終的にはこれらのデータをAIに学習させることで、自動で数値確定ができるようになるという。業種ごとに必要データは変われどもこの方法であれば汎用性が高く、多様な製造業が導入可能だ。

同社では振動データの質だけではなく、周辺のデータもセットで集めるが、これができる会社はまだないという。「世界の名だたるIT企業が似たような製品を出そうとしています、日本の会社で“意味のあるデータ”を集めてものをつくって改善することができたら、全然違った戦いかたができると思います」



株式会社フツパー 代表取締役 大西洋さん(写真前)株式会社浪速工作所 代表取締役 谷本さん(写真奥)



今回の実証事業を通して、代表同士の絆が生まれたと感じる試験機確認の様子

実証フィールドの紹介

株式会社浪速工作所

堺市南区高尾 3丁 3287-2 番地 / 072-271-5931

Scan the QR code



NANIWAKOUSAKUSHO



「技術で新しい価値をうみ世界中を笑顔に」

設計から加工まで社内一貫で手がけ、プラスチック製品の金型や設備、製品などを生産している中小企業メーカー。1946年に創業し現在までに3000種以上の新規製品の金型を開発してきたノウハウを生かし、2018年より、中小企業の抱える社会課題を解決する製品の開発をスタート。これまで培ってきた高い技術力で社会課題を解決する商品の開発にも取り組んでいる。



Trial Round Table Case 03



リハビリテーションにテクノロジーをプラス。

睡眠時バイタルをAI分析することで、運動能力と認知能力を推定し、全自動で運動プログラムや健康リスクなどを提示する。それがRehabilitation3.0株式会社による「リハビリテーション×テクノロジー」のAI技術である。

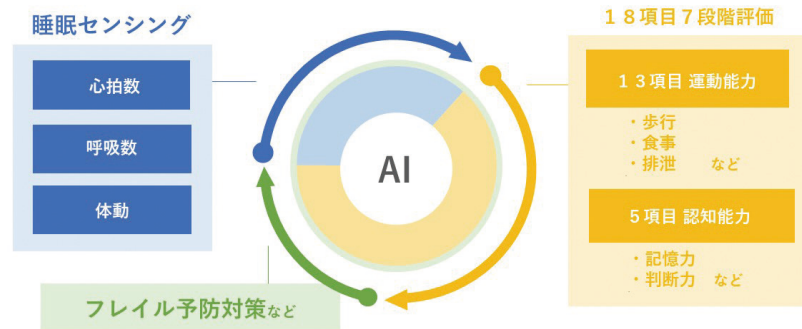
同社の代表取締役である増田浩和さんが作業療法士として10年が過ぎた頃、患者の一部の動作をただで運動や認知の能力が分かるようになってきた。聞いてみるとまわりからも同意を得られた。「これは何らかの情報がカテゴライズされて頭に収まっている。そこでAIを使えば、それぞれの患者に対してより良い生活に向けた選択肢を提示できる」と考えた。まずはAIの勉強をして仮説を立てる。次に自身が持っていたデータを数値化し、大手企業とともに実証実験もした。ここで基幹技術となるのが「SAA (Sleep Activity Assessment) システム」。「これはどんなセンサにも対応できる汎用性の高いもの。睡眠中の心拍や呼吸、体動などを測定し、それを私たちの技術で約400種類のデータに加工してAIに与え能力を推定することに成功しました。今後は市民のデータを収集し、それを実装した試作アプリを制作している段階です」市民データを収集する実証実験をどの地域でおこなうかと考えたときに、堺市がまっさきに浮かんだ。「S-Cubeは補助金だけでなく、フィールドの確保といったバックアップをいただける点に惹かれました」。また大阪府は全国でも高齢化のワーストに入り、なかでも堺市の高齢化は著しい。特徴としては介護を必要とする前段階の人が多い。要支援の予備軍も多いことも実証実験に適している。今回のテーマは「どんなセンサが使いやすいかを、さまざまなセンサで試す」という内容。データの取得期間は同条件下で2週間。偶然にも協力者のITリテラシーに差があり、結果として大きな収穫を得た。スマホと連携が必要か、自宅Wi-Fiと接続して使用すべきか検討し、被験者の家族からもどんな不都合が起こるかを聞き取りした。また今回は増田さんたちがウェブミーティングツールを用いて、どんな健康改善が必要かをデータをもとにアドバイスもした。

今後3年以内の目標として、SAAシステムを使って、誰もが個別に最適化された健康増進プログラムの提案を得て、手軽に確実に健康寿命を延伸して、充実した人生を全うできる社会を作りたいと考えている。

「日本の超高齢化対策の成功ノウハウとして、SAAシステムをグローバルに展開していきたいですね!」

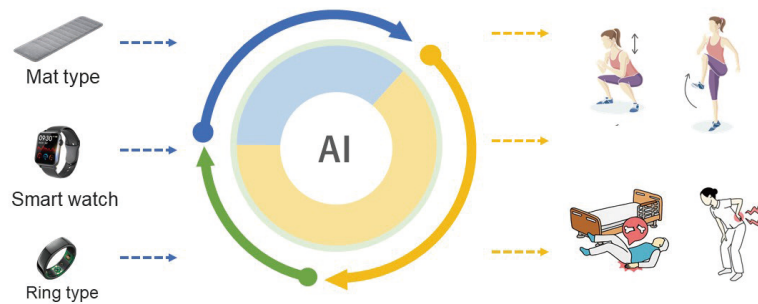
SAA 3つの強み

1. 睡眠時バイタルから運動の能力・認知能力を推定できる



2. 全てのデバイスに対応可能で汎用性に優れている

3. 120万通りの運動プログラムと健康リスクを提供できる



試作アプリ



Copyright 2022 Rehabilitation3.0 Inc. All rights reserved. Confidential

その他のプログラム紹介

入居者のみのサポートに留めず、入居希望のあった企業の代表、個人に対して行ってきたビジネスインキュベーションの実績を最大限、活かす場として様々なプログラムに取り組んでいます。起業や経営に興味がある方の参加をお待ちしております。



起業家育成キャンパス

これから事業を始める方、アイデア段階の方を対象に、事業計画の策定を中心に行います。アイデア段階の方には、考えている事業が継続性、成長性があるのかも併せて精査していきます。事業計画を基に、運転資金など資金調達を行い、創業まで支援しています。

経営実務勉強会

日ごろの支援では、集中できないことも多く、より知識を深めるために、分野に特化した専門家から、基礎を学び、課題を相談、早期解決に向けた支援をしています。受講することにより、事業計画をしっかりと立て創業している方も多いです。

大学との連携

大阪公立大学などと連携を深め、若者(学生を含む)に対しての創業(起業)支援にも注力しています。実績としては、さかい起業ラボ(SIP)を立ち上げビジネスアイデアを創出する段階からサポートし、起業をめざす方の一歩を踏み出すためのサポートを行ったり、現代では欠かせなくなってきたプログラミングの技術を学ぶ場の提供など実施しています。

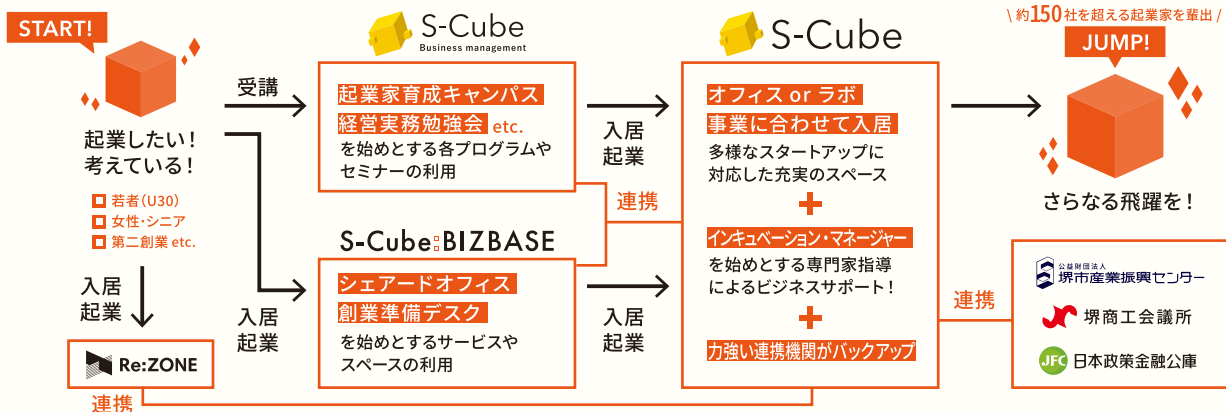


ICT 支援事業

入居企業のサービス開発支援、スタートアップ支援、イベント企画運営、プロモーション支援、ホームページの制作運用、SNS 活用など情報セキュリティやネットワークの疑問などについてアドバイスしています。

S-Cubeの起業支援のながれ

※図の支援のながれは、一例となります。



S-Cube:BIZBASE 新しいスペースが誕生

平成14年以来、約150社を超える起業家を輩出してきた、南大阪最大級のインキュベーション施設 S-Cube に、モバイルワークやテレワークにも適した操業空間、多様なコミュニケーションスペースとして「S-Cube:BIZBASE」(4月リニューアルオープン)が誕生!!



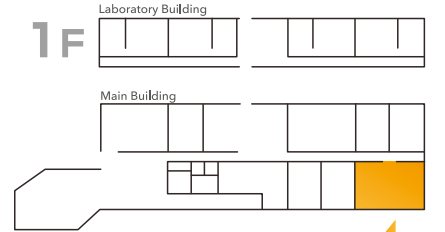
シェアスペースに安心のTELブースを設置!

S-Cube:BIZBASE の成り立ち

近年のコロナ禍によって社会・経済・情報通信環境が大きく変貌し、その状況にも対応しうる操業空間が求められる時代となってきました。また、事業成長のフェーズにおいては、「コミュニティ化」の重要性がよく言われています。多種多様な思考を持った人々が集う場づくりにも必要不可欠となってきたことから、今までの「創業準備デスク」と「シェアードオフィス」を一体化することで、モバイルワーク、リモートワーク、副業などの多種多様な働き方とスタートアップのエントリーポイントが共にある、まったく新しい空間が「S-Cube:BIZBASE」です。

「S-Cube:BIZBASE」は、個室8室(入居時審

査、入居期限あり)とパネル付きシェアデスク10席、Wi-Fi 設備を設置しています。加えて、話し声が漏れにくいテレフォンプースを装備して、仕事に集中できるスペースを提供するとともに、ビジネス専門誌を配した書架を設置するなど利用者同士の交流も活性化する空間となっています。また、スペース内には、定期的に専門家などが在籍し、ビジネスアイデアのブラッシュアップや事業を実施していく上でおこる日々の困りごとや課題に対してアドバイスを実施します。そんな「S-Cube:BIZBASE」はビジネスパーソンの秘密基地となっています。

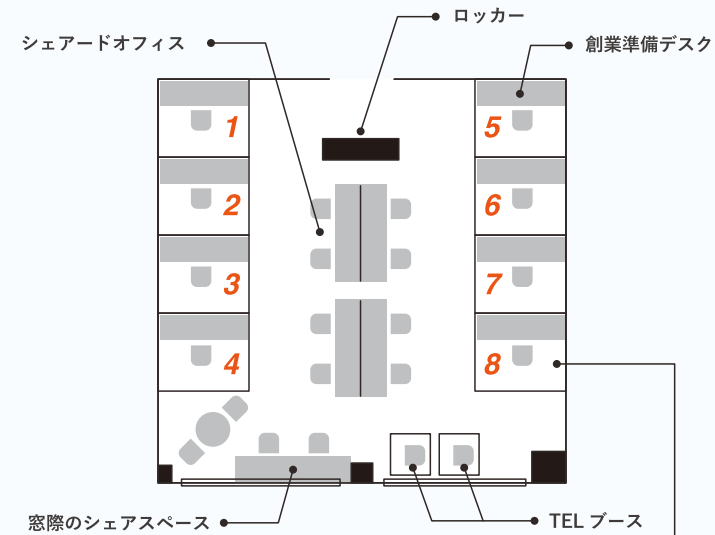


創業準備デスク+シェアードオフィス

創業準備デスクとシェアードオフィスを一体にすることで、多様なコミュニケーションが生まれ、ビジネスの進展につながると考えています。

S-Cube:BIZBASE

個室ブースは8室と中央と窓際にシェアスペース、TELブースを設置予定です。※個室ブースの利用はブース契約者のみとなる予定です。
※すべてのイメージは、完成時と異なる場合がございます。



創業準備デスクとは

インキュベーション・マネージャーの創業サポートが心強い「起業予定の方、創業間もない方の専用のブース」です。

- ・事業所登記が可能・インターネット無料・ロッカー付き
- ・レンタルビジネス書・ドア付きパーテーション
- ・24時間利用可能!・複合機の利用が可能※有料

8室

創業準備デスクブース



パーティションで区切られた個室空間とカフェのようなシェアオフィスが交わる空間



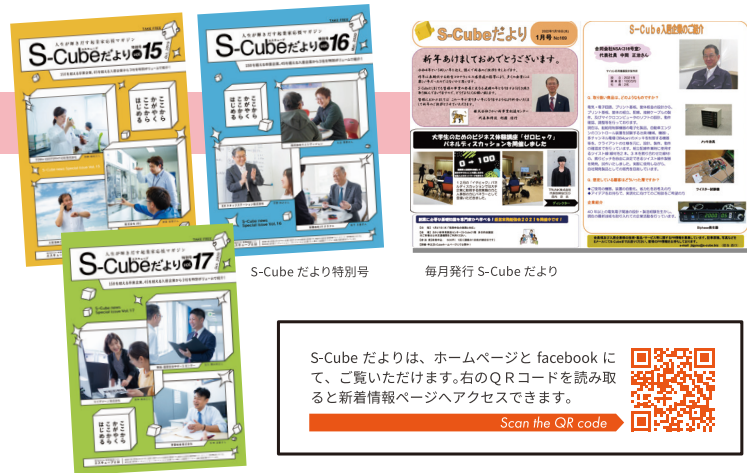
電話・リモート対応時の声が気になる場合の通信用ボックスを用意

Your business plan is realized in this place!

150を超える卒業企業

45を超える入居企業から3社を紹介

毎月発行している「S-Cube だより」の特別号ページとして入居企業、卒業企業の事業紹介と創業時のS-Cubeの支援についてお伺いしました。起業の難しさ、それ以上の楽しさをお届けします！



S-Cube だより vol.19

人生が輝きだす起業家応援マガジン

エスキューブ

特別号

vol.19

エスキューブだよりについて

入居企業の事業内容や新商品、新サービスなどの事業展開、卒業企業の現状、また S-Cube が運営する、起業家、創業間もない企業向けのセミナー情報などを毎月発信しています。特別号も発刊しています。S-Cube にお越しの際は、ぜひご覧ください。HPとfacebookでご覧いただけます。



卒業企業紹介

2015年入居／2019年卒業



株式会社 三天被服
代表者／東谷麗子
072-251-0707
<https://santen-hifuku.net/>



「ワタシポーチ」

誰もが「私らしく」輝ける商品を届けたい。

製造現場で活躍する女性が増えている。にもかかわらず女性専用の素敵な作業服がない。そんな課題に対して果敢に挑戦するのが、三天被服の東谷麗子さんだ。実家の作業着服屋からのれん分けして創業したのは2015年。堺市の補助金を利用して縫製のプロとプロジェクトチームを立ちあげ、当時入居していたS-Cubeのホールを借りて発表会もおこなった。昨年末には縫製工場もみつきり、安定供給が可能に。また工場探しのなかでひとつの需用も探りあてた。それはオーダー作業服。男女関係なくオリジナルの作業服を求める企業の多さを知った。「ニッチな部分でいかにオリジナリティを発揮していくか。それが自社の生き残るやり

方」と語り、「私らしく」をテーマに最近ではカスタム可能なステーションナリーポーチに力を入れる。これは工具ポーチのカスタマイズ技術を持つ縫製工場と知り合い、「一人ひとりに合わせたカスタマイズ」はこれから社会に求められるものと確信。そこで事務用のグッズ収納を自在に組み合わせられるポーチ「ワタシポーチ」を企画した。いっぽうで大阪の地場産業である繊維産業を盛り上げようとMOBIOで開催されている「せんば適塾」での企業連携「Zooプロジェクト」に参加。ここで製作したオリジナル生地でもポーチも開発。今年2月には初となるギフトショーに出展し、BtoCにも挑戦している。「私らしくは会社のテーマであり、ス

タッフにはそれぞれの得意を活かし、苦手は補い合うことができる集団をつくっていきたい」という。またいづれはシンカフェをやりたいとも。「世の中には縫製やパターンづくりが得意な人や好きな人が多くいるので、そんな人たちのコミュニティが形成できたら、小ロットでもスムーズに展開できますから」

2019年5月に卒業したS-Cubeについてはこう振り返る。「情報やそれに対するIMからのアドバイスがありがたかった。遠い世界だったビジコンへ挑戦できたのも、苦手だった書類仕事が悪癖でなくなったのもS-Cubeのおかげ。世界も広がり、それが今につながっています」



女性用作業着の開発の他に、ステーションナリーがまとめられる、オリジナルポーチを開発。ユーザー自身が自身をカスタマイズできる仕様で、開けた瞬間に目視できる透明の小さいポーチ等をマジックテープで着脱できる仕様になっている。

入居企業紹介

2019年入居／入居3年目



合同会社 かえるメディカル
代表社員／吉永 宜之
072-252-6650
<https://kaeru-kokoro.co.jp/>

地域で孤立させない、そんな訪問看護を。

病気や障がいを抱えながらも、地域でその人らしく生活できるように支援するのが訪問看護の役割。合同会社かえるメディカルは、精神・認知症専門の訪問看護ステーションを運営する会社だ。代表の吉永宜之さんと医療関係との出会いは大学時代。母が病に倒れ、中退も考えたが大学関係者に紹介され精神科の病院でヘルパーとして働くことになる。卒業後は看護学校に入学し、労災病院を経て精神科の病院で勤務。「私の父はアルコール依存症でした。当時それが疾患だと理解してアプローチできていたら状況は変わっていたはず。だから

精神医療、その地域で孤立する人をサポートしたいと在宅看護の道を選びました」

2019年の起業後、S-Cubeに入居。行政が運営しハード面も整備された環境で、スタッフも働くことにモチベーションを持ってもらえると語る。「IMの存在も大きい。経営は素人だったのでIMのサポートやアドバイスがなかったら、遠回りしたり心折れることもあったと思う。これって訪問看護と同じだなと感ずることがあります」。起業時の3名から従業員は現在13名と増えて、事業は順風満帆だ。「この仕事は数値で測れる他の

疾患と違い、生活に踏み込んでじっくり取り組んで、数年かけて少しずつ良い変化が出る仕事なので忍耐力がある」という。同社がベースとしているのは「WRAP」の精神。ウェルネス、リカバー、アクション、プランの略でより良い精神状態になるために自分でプランを持ちましようというものの。メンタルの健康を維持するために、普段自分ができていることを実行してもらおう。またそれができなくなったとき、他者にどんなサポートを求めるかを一緒にプランづくりして疾患をコントロールしていく。今後は同じ想いの人を増やし、堺

の精神・認知症訪問看護といえば、かえるメディカル」と言われるようになりたい。「訪問看護は1対1の仕事ですが、それを越えて利用者同士のつながりも広げたい。訪問看護と利用者と地域の支援者がひとつになって、結びつきがひとつでも増えればいいと考えています」



入居企業紹介

2019年入居／入居3年目



Scan the QR code



株式会社 プレーンエッジ
代表取締役／平端 和博
072-247-8326
<https://plane-edge.com/>

起業をしたいと思ったら、とにかく行動を。

2021年は国内家庭用ゲーム市場規模は3600億円を超え、スマホゲームもビックヒットが誕生、eスポーツ分野もさらなる盛り上がりを見せている。そんなゲーム業界でさまざまなプラットフォームに向けてのグラフィックの開発や、遊技機向けの映像制作をおこなうのが株式会社プレーンエッジだ。「ゲーム内で操作するキャラクターモデルやアイテム、背景のイメージを制作しています。3DCGが中心ですがユーザーインターフェースやエフェクト、ドット絵などゲームのグラフィック制作において経験豊富なメンバーが揃っていることが強みです」そう語るのは代表取締役の平端和博さん。プレイヤーとしてもクリエイターとしてもゲームと

もに歩んできた。幼少期には駄菓子屋のゲームに夢中になり、中学生の頃に出会ったファミコンを皮切りに歴代のゲームを遊んだ。20代はグラフィックのデザイナー、その後大手ゲーム会社に10年在籍し、業界ではその名を知られた株式会社トリサンを経て独立。

起業時はトリサンに間借りしていたが、従業員を雇用するタイミングできちんとした事務所が欲しいと、2019年1月にS-Cubeに入居。「ゲーム開発だけをやってきたので、企業経営に関しては素人。ありがたかったのは資金繰り表のつけ方を教えてもらったこと」。後輩へのアドバイスとして「やってみること。行動すること」と語る。トリサンではNo.2のポ

ジョンで不満もなかったが、一度きりの人生だから自分も社長になってみたかった。「起業する人って誰でもはじめて。私も起業してはじめて法務局とか公証人役場に行きましたが、みなさん親切に教えてくださいから」

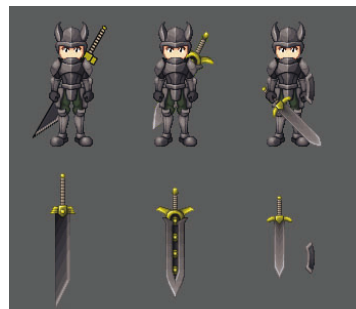
今後はプランナーやプログラマーも採用して、自社のオリジナルゲームをつくりたいと語る平端さん。現在もゲーム系専門学校で講師をしているが、こういった学校からゲーム業界に入る人は2割程度だという。「人気業界ゆえに狭き門。でもゲームへの愛や情熱はある、残りの8割の人たちを何とかできないか。そのパワーを生かせないか今、考えています」



3DCGで作られた立体的なオリジナルキャラクター



ゲーム、映画等で見られる動きのある映像効果



近年のソーシャルゲームの需要で平面的な造形も

多種多様なビジネスパーソンが
集まる拠点で新事業を創造する

S-Cube BIZBASE

エスキューブ：ビズベース



2022年
4月1日
OPEN!



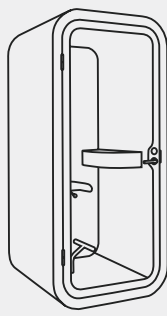
- インターネット無料
- ロッカーあり
- レンタルビジネス書
- 安心のTELブース
- 複合機の利用が可能 (有料)

平成14年以来、約150社を超える起業家を輩出してきた、南大阪最大級のインキュベーション施設 S-Cube に、モバイルワークやテレワークにも適した作業空間、多様なコミュニケーションスペースとして「S-Cube :BIZBASE」(4月リニューアルオープン)が誕生!!

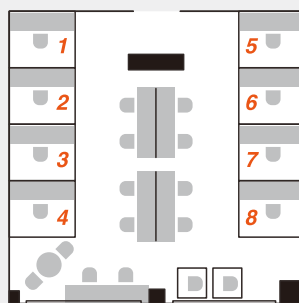
創業準備デスクとシェアードオフィスが一体化! ※完成イメージとなります



パーティションで区切られた個室空間とカフェのようなシェアオフィスが交わる落ち着いた空間になっていて、電話・リモート対応時の声が気になる場合の通信用ボックス(TELブース)も用意しています。



TELブース



※間取りイメージ

自宅以外の活動場所に最適

■ シェアードオフィス
月額利用料 **5,500円** 税込

創業をめざす方に **8室**

■ 創業準備デスク
月額賃貸料 **13,200円** 税込 (共益費含む)

※ビズベース：個室ブースに関しては、入居条件がございます。

Re:ZONE S-Cube 1部屋 35,750円~

スタートアップの方はもちろんサテライトオフィスやテレワークの方にもオススメです
完全個室のプライベート空間 / 原状回復義務なし / 保証金・礼金0円



知的創造の場にふさわしい快適な事業空間 入居者随時募集中

(公財) 堺市産業振興センター・堺商工会議所・大阪公立大学と協力して企業間連携や産学連携を力強くサポート

経営サポート

最大 50% の
公的賃料補助

充実の
設備・環境

24 時間
利用可能

駐車場は
月額8,800円~

オフィス

47 室

ラボ

8 室

マルチラボ

4 室



創業間もない方や
新分野に挑戦する企業に

月額賃貸料 **51,150円** 税込 (共益費含む)



研究開発を行う起業家や企業に

月額賃貸料 **89,100円** 税込 (共益費含む)



月額賃貸料 **246,400円** 税込 (共益費含む)



空室状況や
賃料補助制度については
お気軽にお問合せください。

Tel: 072-240-3775

S-Cube 株式会社さかい新事業創造センター

Q s-cube 堺

S-CubeQR
QRコードを読み
込むとホーム
ページへアクセ
スできます。



〒591-8025 堺市北区長曾根町 130-42 | TEL | 072 240 3775 | FAX | 072 240 3662 | E-MAIL | info@s-cube.biz | URL | www.s-cube.biz

S-Cube だより 特別号 Vol.19 (2022年3月) 【企画・編集・発行・問合せ】株式会社さかい新事業創造センター